



倉岡 名前も知らないような関係でも、緑色の安全ベストを着ていると、子どもたちが安心してあいさつを返してくれま
す。それだけではなく、車も減速してく
れますよね。

山内 私も活動時は安全ベストを着用
するように心掛けています。

松野 朝から見守り活動をしていると、
地域の方が「毎朝大変ですね」と声を掛
けてくださいますが、子どもたちが頑張っ
ていると思うと早起きも苦ではありませ
んし、大変だとも思わないですね。

山内 広安小の学校運営協議会では一
番の課題を「あいさつ」として、各学期最
初の2週間、地域の方に参加してもらう
あいさつ運動をしています。曜日ごとに

地区を割り振って、金曜日には益城中の
生徒にも参加してもらいました。地域の
方同士の交流や、小学生・中学生・地
域の方の交流もできて、すごくいい雰
囲気でした。

参加した中学生の中には広安西小の
卒業生もいて、「西小でもしたいな」とい
う声があり、校長先生と相談した結果、
広安西小でも益城中の生徒が参加する
あいさつ運動ができました。小中連携と
してぜひこのような取り組みを続けてい
きたいと考えています。

また、広安小では横断歩道を渡った後、
止まってくれた車にお礼をするというこ
とも取り組みに加えています。見ている
すぐく気持ちがいいですね。

中学校同士の交流

松野 広報まじきの熊本地震5年特集
記事(編集注・令和3年4月号)で、遺
族代表の私と益城中・木山中の生徒会
長の3人がたまたま同じページに掲載さ
れたんです。私も中学時代は木山中の生
徒会長を務めていたこともあり、これは
ぜひ中学校同士の交流したらよいのでは
ないかと思いました。生徒たちもお互いに
交流したいという気持ちがあったようで、
それがカタチになったのが合同あいさつ運
動です。それぞれの学校を訪ねる交通手
段やオンラインでの打ち合わせなど、さ
まざまな壁がありました。先生方のご
理解があつて実現できました。



松野良子さん

堅島 そういう交流を持つと、どうして
も学校生活の時間がずれたりするので調
整が必要ですし、交通手段の手配もしな
ければならないので、そういうクリアしな
ければならないことは学校運営協議会の
方々にお任せし、生徒たちと何をするか、
どういう話をするかという部分を学校側
で担当させてもらいました。生徒たちの
「同じ町の中学生として交流を持ちたい」
という気持ちがあり実現したことで、初
めて会ったのに親しげだったり、個人的に
仲良くなった子たちもいたりして驚きま
した。生徒たちにとって刺激を受けるいい
体験で、自分たちが交流のきっかけをつ
くれたという自信もついたと思います。

井下 松野さんが中学生たちに交流を
試みてほしいという願いを持ったことが大
きなポイントですね。その願いを学校
運営協議会で伝えてくれたから、各学校
で話をするのができ、実現しました。

今回はあいさつ運動でしたが、生徒た
ちがやりたいと思ったことをできるように
周りが支えていこうという話も出ている
ので、いろんなかたちで交流は続いていく



井下友梨花さん

んだらうなと思っています。

松野 中学校と関わるようになってびっ
くりしたのが合唱。どちらの中学生も合
唱に熱がこもっていて上手だから、例えば
合唱大会みたいなのをしてもいいし、いろ
んな交流がありますよね。新しくできる
復興まちづくりセンターにもピアノが設
置されますし、交流が生まれる場になり
そうですね。

まち全体を

学びの場にするために

松野 すぐにはできないかもしれないけ
ど、まち全体が学びの場という考え方が
広まればいいですね。

井下 そのあたりは、堅島先生が強い思
いを持つてらっしゃるのではないですか？

堅島 一つ心配しているのが、生徒たち
がいろいろな活動をするにあたって、教員の
仕事が増えるということ。今の木山中は、
学校運営協議会の皆さんが一生懸命し
てくださって、正直教員よりも協議会の
皆さんの負担の方が大きい状態で動いて